

令和 8 年 7 月 27 日(月)  
しなやかに生きる子ども



3 学年 外国語活動  
「Unit3 How many?」

## 「この数字が欲しい。だから、この絵について聞こう。」

外国語活動・外国語科では、外国語で気持ちや考えを伝え合う活動を繰り返し行っていく中で、自分にとっての目的・場面・状況を見だし、“楽しい”コミュニケーションの行い方を探っていく学びを目指します。子どもが持っているカードの絵柄の個数について友達と尋ね合い、聞き取った数字を集めて BINGO ゲームをする活動を設定しました。子どもは個数を尋ねるやり取りを繰り返す中で、「あと 19 を見付けられれば、BINGO になる。」「もっとほかの列も BINGO にしたい。」と目的を明確にしてやり取りに臨むようになります。そうすることで、外国語表現に慣れ親しみ、目的意識をもちながらコミュニケーションを図る子どもの姿が見られました。

私たちは、自分の意思をもって粘り強く学ぶ力強さと仲間の考えを受け入れながら学んでいく柔軟さを兼ね備えた「しなやかに生きる子ども」を育みます。そのために、他者とつながり合い、“楽しい”を見いだす学びを大切にしていきます。多様な個を認め、高め合いながら学べるように「教材化」「教師の立ち位置」の二つの視点から、子ども一人一人を大切にしたい授業の在り方を探っていきます。

## 外国語活動 3年「Unit 3 How many?」より

### 視点1

### 多様な個が生きる教材化

本 Unit では、数を尋ね合い、BINGO を目指す教材を設定しました。絵柄ごとに個数を 1～10、11～15、16～20 個に定め、集めたい数によって何を聞くかを選択できるようにしました。「あと 19 が埋まれば BINGO になる。だったら、apple の個数を尋ねようかな。」

「BINGO をたくさん目指そう。とにかくたくさんの人に聞いていくよ。」というように、友達とのやり取りの中で目的意識を生み、外国語で話すことの“愉しさ”を見いだすきっかけとなりました。

一方で、BINGO のゲーム的な楽しさに引っ張られ、外国語でコミュニケーションを図る“愉しさ”に到達できなかった子どもの姿もありました。多様な子どもが自発的に「～したい。」と思えるよう、子どもにとって身近な場面設定を考えていく必要がありました。



### 見方・考え方を働かせるための教師の立ち位置

### 視点2



目的をもって“How many?”の表現を用いてコミュニケーションを図れるようにするために、教師は主に二つの立ち位置で授業を行いました。

一つ目は、子どもと共に英語表現ややり取りを考える立ち位置です。教師が「次は 12 が欲しいね。どう聞いたらいいかな。」「当たらなかったけど、近いマスが埋まったよ。」と子どもと一緒に取り組むことで活動に臨む素地を育むことができました。

二つ目は、よい表現を広める立ち位置です。子どものやり取りの中で、教師が「19 が欲しいから apple の個数を聞いているんだね。」

「Thank you. って伝えるの気持ちがいいね。」と、見方・考え方を働かせながら尋ね合っている姿を価値付けることで、子どもが自信をもってやり取りをすることができました。

# 外国語科 5年「U7 Welcome to Japan!」より

## 視点1

## 多様な個が生きる教材化

本 Unit では、ALT と行くとしたら日本のどこに行きたいかを考え、CM で日本の魅力を伝えるという教材を設定しました。日本の行きたい場所とその理由を尋ね合う活動から、行きたい場所が同じでも理由が一人ひとり異なることに気づき、それぞれが ALT に伝えたい日本の魅力を選択し、適した英語表現で伝えることができました。また、「日本の魅力を ALT に伝えたい。そのためにCMを作る。」という目的意識をもって取り組むことで、外国語で ALT に思いが伝わるという“愉しさ”につなげていくようにしました。

一方で、魅力をたくさん伝えることができたものの、本当に伝えたい内容を絞り切れずにいたり、話す順番や内容を深めたりしていくことができなかった子どもの姿もありました。話す内容を整理したり、話す順番を考えたりすることに学びの焦点化を図っていく必要がありました。



## 多様な個が生きる教師の立ち位置

## 視点2



目的をもって、行きたい場所とその理由を尋ねたり、答えたりした上で、もっと日本の魅力が伝わるようなコミュニケーションが図れるように、教師は、主に二つの立ち位置で授業を行いました。

一つ目は、ALT のプレゼンテーションと自分の発表を比べ、より魅力を伝えるための英語表現を子どもとともに発見していく立ち位置です。様子を表す英語表現や、既習の中にも使える英語表現があることに気づき、活用する姿が見られました。

二つ目は、表現の良さを広める立ち位置です。同じグループの子や異なるエリアの子など何回も交流する中で、友達の手本の CM の良さに気づく子どもがいました。その良さをみんなに広めたり価値付けたりする立ち位置をとることで、子どもたちは、さらに、自分たちの CM をより良いものにしていくために、内容を深めたり、ジェスチャーや発表の仕方に工夫を重ねる姿が見られました。